

令和5年度学校評価表

府中市立上下中学校

	中期（3年間） 経営目標	短期（今年度） 経営目標	目標達成のための手立て	評価指標	自己評価		学校関係者評価		改善画
					7月 評価	結果と課題の説明	12月 適正	意見等	改善案
確かな学力	これからの時代に求められる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）を育むため、授業改善を推進	①「ことば探究科」で学んだことを学習・生活の基盤とする。 (令和5年度完全実施) (2/3) ②生徒による主体的な学びとなるようICT端末を活用し授業改善を図る。 (2/3) ③一人一人の意見が大切にされる「対話的な学び」の実施 (1/3)	①ことば探究科の研修の充実を図り、全教職員がことば探究科及び各教科・生活等で有効に活用できる。 ②ICT教育研修の充実を図り、全教職員が各教科及び校務等で有効に活用できる。 ③授業における「対話的な学び」の研修を実施する。 (※令和5年度 広島県中学校人権教育研究大会の実施)	①「府中市学力調査」の4月と12月の比較 A +5ポイント以上 B 0ポイント以上 C -5ポイント以上 D -5ポイント以下 ②「ことば探究科」及びICT端末の活用、「対話的な学び」を授業改善に活用した回数（一人2回以上の授業改善について提案する） ③生徒・教職員アンケートから A 達成率 80%以上 B 達成率 70%以上 C 達成率 60%以上 D 達成率 60%未満	C	①4月【目標値と比較】(P=ポイント) 国【1年+4.5P、2年+2.7P、3年-2.2P】 社【1年-5.6P、2年-3.7P、3年-14.4P】 数【1年-0.9P、2年-7.1P、3年-21.4P】 理【1年-1.7P、2年-8.5P、3年-17.3P】 英【1年+3.1P、2年-1.5P、3年-11.2P】 ②授業改善の提案数、一人平均0.88回 教職員アンケートからは、授業改善には全職員が積極的に取り組んでいる。今後は組織的高まり合うためにも、授業提案ができる環境を整えていく。 ③生徒アンケートから「ことば探究科」81.7%、「ICT 端末を活用した授業」91.5%、「対話的な学び」94.3%と評価が高い。このことは、教職員アンケートも同様である。今後は、この取組を学力向上につなげていく必要がある。	△	①目標値とは何か分かりにくい。また、目標値も適切なものか。4月と12月の比較で判断したい。 ・小学校での基礎学力が身につけていないのではないかも連携を図り、9年間の見通しを持って取組を進めてほしい。 ②全ての教師が積極的に授業提案できるように取組を進めてほしい。 ③「ことば探究科」の授業は、他の教科に生かされていますか。	①4月と12月の比較 国【1年-1.8P、2年+8.1P】 社【1年-1.0P、2年-0.7P】 数【1年-14.0P、2年-2.1P】 理【1年+6.8P、2年+22.1P】 英【1年-8.8P、2年+9.3P】 ・算数（数学）においては、上下学園で共通の課題として取組を進めている。 ②最終的に授業改善の提案数、一人平均2.13回となった。引き続き、主任を中心に校内研修の充実を努める。 ③「ことば探究科」に関わる生徒の肯定的な回答は80.8%、教職員の回答は100%であった。継続して取り組みたい。
地域と創る学校	コミュニティ・スクール及び小中高一貫教育の推進	めざす生徒像に向け、地域・保護者・生徒が主体的に活動する。 (3/3)	①生徒とCS委員との交流を企画し活動の推進を図る。 ②児童や高校生、地域とのコラボレーションを図り、地域行事に参画する。 ③生徒の自己肯定感の育成を図る。	①生徒とCS委員との交歓会及び合同行事を計4回以上開催し、CS活動を推進する。 ②地域行事に4回以上参加する自己肯定感アンケートによる肯定的な評価の割合を80%以上にする。 ①～③の項目について A 達成率 100% B 達成率 80%以上 C 達成率 60%以上 D 達成率 60%未満	B	①「花いっぱい運動」(3回)、「小中高合同清掃活動」など、上下中または上下学園の行事が伝統としてつながっている。 ②「あやめ祭り」(吹奏楽)、「小中高合同清掃活動」、に参加し、地域交流を行った。また、各教科等において地域学習や地域の方をゲストに招くなど、地域のために貢献したい」88.6%、+5.5と地域の一員としての自覚が高まった。 ③生徒アンケート(4月と比較) ・「自分にはよいところがあると思う」77.2%、+1.9 ・「将来の夢や目標、かなうと思う」74.0%、-6.9 など自己肯定感を高める取り組みが必要である。	○	①花いっぱい運動では、種から育て、町内へ配布までを運営協議会委員と生徒で計画して行い、昨年より充実した取組となった。 ②合同清掃では、中学生がリーダーシップをとり、小学生をまとめ、地域のために関わろうとする姿がうれしかった。地域への啓発が必要である。 ③一人一人が認められていると実感できるような活動を計画する必要がある。 ・委員と生徒が協議する場を設定し、共に活動を創り上げることが大切であると思う。是非、早急に実施したい。	①街並みの景観を考えて、プランタを茶色にし、木札を準備中である。 ②地域の回覧等により、広く情報を提供し、CS活動について理解していただき、活動の輪を広げる。 ③縦割り活動によるグループスピッチの取組を通して、自己表現力と他者理解を図る取組を行っている。3年生での自己表現では学習部会を中心に面談指導をしていただいた。 ・令和6年度のCS行事に向け、生徒会執行部と運営協議会委員(地域部会)との会合を実施する(2月に1回実施した)。
健やかな体	体力づくりの推進	よき生活習慣とたくましい体を育成する (3/3)	①体力づくりプログラムの指導や運動部活動の活性化を図る。 ②定期試験中、家庭でのICT機器の活用内容について生徒の意識を高める。	①新体力テストにおいては、全国平均以上の種目及び経年比較で1%以上向上した種目の割合 A 3割以上 B 2割以上 C 1割以上 D 1割未満 ②ICT機器の活用内容を調査し肯定的評価を示す生徒の割合 A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	B	①新体力テスト中学2年生の結果を、令和4年の数値と比較すると男女とも「持久走」、「50m走」に課題が見られる。8種目中、男子5種目、女子3種目が平均以上で、特に柔軟性は優れている。 ・生徒アンケート「新体力テストの結果から課題を改善し運動を継続している」52.8%であった。今後、自分に適した運動計画を立て取り組めるようにする。 ②生徒アンケート「タブレットを使って家庭学習や定期試験勉強、夏休み等の学習で活用した」75.7%であった。教職員も「家庭学習等で活用させている」77.8%と学習方法を模索している。	○	①コロナ禍だけでなく、生活様式も変わり、子どもたちの体力低下が気になる。学校全体で体力向上に取り組んでほしい。 ②タブレットの活用については、積極的に取り組んでほしい。併せて、生徒が正しく使用できるよう、指導を徹底してほしい。 ・SNS等での大きな事件があったが、子どもたちも加害者にも被害者にもなることを知ってほしい(生徒・保護者とも)。	①縦割り活動による、体力向上に取り組む。生徒が主体的に取り組めるよう、生徒会執行部と体育科で連携を図り、学校行事等を企画・運営できるようにする。 ②参観日に1・2年生とその保護者を対象に、専門機関と連携を図り、スマホ安全教室を実施した。また、新入生とその保護者を対象に、入学説明会でも実施した。保健日より等でも引き続き啓発していく。

※自己評価：評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。評価指標は各校で定めること。※学校関係者評価：○月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である：○、適正でない：×、適正かどうか分からない：△として、記入する。  
※この様式は、各校年間評価計画に則り、7月、12月、年度末等に活用し、中間報告はHPで公開し、最終評価結果を市教育委員会に報告すること。